

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私が現在行っている主要な研究分野は、以下の三点になります。

一つ目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の学校教育問題を解決していくためにスクールソーシャルワーカーに課せられた専門的役割や機能について実践研究を行っています。

二つ目は、「児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくための支援方法として、アウトリーチを中心としたソーシャルワークについて研究を行っています。

三つ目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。ノーマライゼーションの理念普及から知的障害・発達障害（児）者においても地域生活の充実を推進していく動きが高まりを見せていますが、現実的には利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しています。これらの状況から、地域生活の質を向上させる専門的支援方法等の研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編集『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際』、中央法規出版、2014年4月。

<論文>

- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーが相談対応する児童虐待の実態と実践課題—配置型と派遣型の活動形態に焦点化して—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻、第2号、2016年2月。
- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン」『学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望』日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌、2015年6月。
- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：「精神保健福祉援助実習指導—新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻、第1号、2014年7月。
- ・奥村賢一「スクール（学校）ソーシャルワーク実習に関する実態調査」『学校ソーシャルワーク研究』第8巻、2013年6月。
- ・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・浜田知美・大門俊樹・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーに対するスーパービジョン体制の動向調査結果の概要」『学校ソーシャルワーク研究』第8巻、2013年6月。

②その他最近の業績

<報告書>

- ・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・大門俊樹・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン研究—日本・アメリカ・カナダ・韓国での調査報告—』科学研究費助成事業（基盤研究B）研究報告書、2014年2月。
- ・奥村賢一『スクール（学校）ソーシャルワーク現場実習プログラムの構築に向けた基礎研究』科学研究費助成事業（若手研究B）研究報告書、2013年3月。

<学会講演・シンポジウム・報告等>

- ・奥村賢一「学校ソーシャルワーク研究の展望と課題」日本ソーシャルワーク学会セミナー2015、シンポジウム(大妻女子大学)、2015年11月。
- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーの組織化を図る～福岡県スクールソーシャルワーカー協会の活動を通して～」日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会、基調報告(福岡国際会

議場)2015年7月.

- ・奥村賢一「児童虐待防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する実態調査－活動形態の比較による被虐待児童生徒の状況分析」日本学校ソーシャルワーク学会第8回全国大会，自由研究発表（福島大学），2013年7月.

③過去の主要業績

<著書>

- ・奥村賢一「第7章 スクール（学校）ソーシャルワーカーとスーパービジョン」社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『スクール（学校）ソーシャルワーク論』，中央法規出版，2012年4月.
- ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと－スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版，2009年9月.

<論文>

- ・奥村賢一「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察－パワー相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻，2009年6月.
- ・奥村賢一「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察－軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号，2009年5月.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費補助金（若手研究B）「ネグレクト防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する基礎的研究」195万円，平成25年度～平成26年度. ※期間延長
- ・門田光司（研究代表者）科学研究費（基盤研究C）「スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発」1,289万円，平成23年度～平成27年度，共同研究者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会（代議員）、日本学校ソーシャルワーク学会（理事兼事務局長）、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

<学部>学校ソーシャルワーク論・1単位・4年・前期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位、4年・前期、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、相談援助の理論と方法C・2単位・2年・後期、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・後期、家族福祉論・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位、3～4年・通年、不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、不登校・ひきこもり援助応用演習・1単位・4年・後期

<大学院>子ども家庭福祉研究・2単位・1・2年・前期

7. 社会貢献活動

- ・日本学校ソーシャルワーク学会・理事兼事務局長
- ・福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
- ・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

- ・福岡県教育委員会 不登校児童生徒学校等復帰支援事業運営協議会 委員
- ・田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
- ・北九州市立今町小学校 学校評議員・学校関係者評価委員
- ・福岡県立博多青松高等学校・学校関係者評価委員
- ・糸島市いじめ防止等対策委員会・委員
- ・香春町いじめ防止等対策委員会・委員

8. 学外講義・講演

<講演>

- ・平成 27 年度保健主事・養護教諭合同研修会「子どもを中心とした支援のあり方について」小郡市生涯学習センター，2016 年 2 月．
- ・平成 27 年度青少年相談担当（リーダー）連携対応研修会「発達に課題を抱える子どもとネグレクト家庭への対応について」福岡県庁，2016 年 2 月．
- ・第 16 回 筑紫地区人権・同和教育研究大会「子ども中心の支援とは～子どもたちの居場所、ありますか？～」ミリカローデン那珂川，2016 年 1 月．
- ・福岡市医師会研修会「家族システムズ・アプローチ～多問題家族への支援について考える～」福岡市医師会館，2015 年 12 月．
- ・第 14 回市民フォーラム『子どもにやさしいまちづくり』『子どもの権利と学校ソーシャルワーク』福岡市市民福祉プラザ，2015 年 12 月．
- ・平成 27 年度児童虐待防止セミナー「子どもの貧困と虐待からみる家族支援の必要性」まいピア高田，2015 年 11 月．
- ・平成 27 年度特別支援教育コーディネータースキルアップ研修「愛着障がいの背景と支援の実際」大分県教育センター，2015 年 10 月．
- ・平成 27 年度スクールソーシャルワーカー活用事業連絡協議会「関係機関との関係について～要保護児童対策地域協議会の活用～」長崎県教育センター，2015 年 8 月．
- ・平成 27 年度宇多津町教育連携協議会夏季研修会「困った子は困っている子～ネグレクト家庭への支援を中心に～」香川県宇多津町保健センター，2015 年 8 月．
- ・長崎市教育相談夏季研修会「スクールソーシャルワーカーの効果的活用に向けて」長崎市民会館，2015 年 7 月．
- ・人権擁護委員研修会「スクールソーシャルワーカーの活動内容と効果的関係に向けて」福岡法務局西陣出張所庁舎，2015 年 7 月．

<メディア>

- ・小学館「子どもの虐待・愛着不全 学校に何ができるのか」『小四教育技術 9月号』2015 年8月17日．
- ・テレビ西日本「虐待の実態とは～“コドモは、未来”連動企画」『土曜NEWSファイルCUBE』2015年8月1日．
- ・朝日新聞「専門家、歓迎と注文 カウンセラー、全校に配置方針」2015年7月4日．
- ・毎日新聞「非行情報、警察と共有へ...市教委」2015年5月22日．

その他多数

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. 学校ソーシャルワーク実践に関する研究
2. 児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究
3. 知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究